

第3話

週刊

タバコの正体

3月11日に発生した大地震と大津波が東北地方に未曾有の被害を与えてから、ちょうど半年がたちました。1年生の諸君は、和工を受験した入試の日だった事を覚えているでしょうか。ニュースでみた津波の凄まじさに、目が釘付けになった人も多かったはずですが、そろそろ、その衝撃も脳裏から消えているかもしれません。被災地から離れて、いつもと変わらぬ生活を続けている私たちにとっては無理もない事だと思います。

ところが2週間前、台風12号の接近に伴う警報発令で皆さんが帰宅した後、9月3日の深夜から翌日にかけて、紀南地方に長く強く降った大雨が、洪水と土砂くずれとなって甚大な被害をもたらし、和歌山県内の死者、行方不明者は合わせて70名を超えました。鉄橋が橋げたごと流されたり、町並みが泥水につかったニュース映像を目にしても、それが地元であることを一瞬信じられない気分でした。幸い和歌山市周辺には被害はなかったものの、みなさんの親類や知り合いで被害にあった方も多くいたことだと思います。亡くなられた方のご冥福と、被害に遭われた方々の生活が早く正常化される事をお祈りします。

ちなみに警察庁の発表では、東日本大震災の死者は1万5769人、行方不明者は4227人で、今なお身元確認ができていない遺体が1116体に上るそうです。改めて、その数の多さに悲惨さを感じずにはられません。

もし、宮城県沖で大地震が起きていなければ、2万人近い方々は今も、いつもと変わらぬ日常生活を送っていたことでしょう。そして、今回の台風12号も日本に上陸していなければ、多くの和歌山県民が辛い思いをしなくてよかったです。

でも、地震や津波それに台風は自然現象なので、人間の力が及ばない地球の営みです。だから、自然災害を無くすことはできないでしょうが、災害に備える事はできると思います。「災害は忘れた頃にやってくる」と言われるように、平穏な時こそ、余裕をもって「いざ」という時のために何か準備をしておくべきではないでしょうか。そうすれば、「あの災害さえ起こっていなければ……」という思いをしなくても済むかもしれません。

ところで、「もしタバコを吸っていなければ・・・」どのくらいの人々の命が助かるか知っていますか？

じつは、日本国内だけで毎年10万人、地球上では600万人もの人がタバコのせいで亡くなっています。自然災害の犠牲者を無くす方法は難しいですが、タバコの被害を無くす方法は簡単です。

そうです。タバコを吸わなければいいだけです。